

導入事例

特別区 競馬組合 様

厩舎管理のクラウド化による業務効率化の実現

プロフィール

特別区
競馬組合住所 〒140-0012
東京都品川区勝島2-1-2サイト <https://www.tokycitykeiba.com/>ご協力 特別区 競馬組合
厩舎管理課
係長 谷脇 大介 様
六角 元春 様
木下 知美 様

取材日 2023年8月22日(火)

導入システム

厩舎管理システム

- ・入退厩事務の省力化機能
- ・自動集計、厩舎情報任意検索機能
- ・地方競馬主催者の共同システムとの外部連携機能
- ・スマートフォンからの入退厩申請
- ・入厩状況の見える化（厩舎配置図） 等

上記の機能により、アナログで管理されていた厩舎管理のデジタル化を実現。また、Salesforce基盤上に構築することで低コストでシステム化しました。



事例のポイント

課題

- ▶ 紙によるアナログ管理
- ▶ 業務の属人化

解決策

厩舎管理システムの導入

- ▶ 入退厩管理の電子化
- ▶ スマートフォンからの入退厩申請の実現
- ▶ 各厩舎の管理状況の見える化

効果

- ▶ デジタル化による入力時間の削減
- ▶ 調教師は随時入退厩申請が可能に
- ▶ 属人化の解消

厩舎管理について

—— 特別区競馬組合の厩舎管理について教えてください。

大井競馬場に登録のある競走馬が、競馬場に入厩しているのか、牧場等休養地に放牧に出ているのかを管理する業務です。

大井競馬場では57名の調教師が約1,000頭の競走馬を管理しており、レース開催時は約900頭の馬が入厩しています。

抱えていた課題

—— 導入前の課題を教えてください。

厩舎管理は、地方競馬主催者の共同システムで管理していますが、大井競馬においてはより厳格な厩舎管理をしているため、共同システムは大井競馬場においては使いづらさを感じるシステムでした。

また、調教師が1頭ごとに紙で入厩申請を行い、職員が申請内容に基づきシステムにデータを入力していたため、作業量が多く、職員の業務負担が問題となっていました。同時に、担当者が入退厩や在厩馬の情報を紙やExcelによる独自の台帳で管理していたことから、他の職員による把握が難しく、属人化していました。

このような課題の解消に向けて、大井競馬場のルールに適した新しいシステムの導入を検討しようということになりました。



ジーシーシーとの出会い



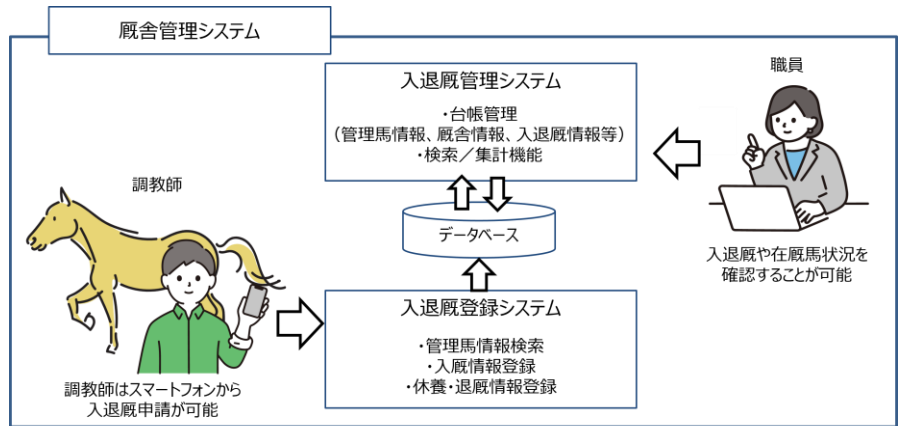
大井競馬場

—— ジーシーシーにお声がけいただいた経緯を教えてください

業務内容が特殊でパッケージシステムが存在しなかったため、一からシステムを開発してもらう必要がありました。いくつかの会社に相談しましたが、費用が高くなってしまったり、こちらの要望に見合ったものが出てこなかったりと難航しました。そんな中、当組合の人事給与システムを導入いただいているジーシーシーに試しにご相談してみたところ、開発に向けて前向きなお話をいただいたため、ジーシーシーと話を進めることになりました。

—— システム開発の段階での、ジーシーシーの印象はいかがでしたか

入厩手続きというイメージのつきにくい業務であるため、双方の認識のすり合わせが一番大変でしたが、専門的な内容でもこちらの意図を組もうと丁寧にヒアリングし、「こういう方法なら可能です」と提案してくれました。営業、開発を含め、複雑な注文に対しても寄り添った提案をしてくれました。



用語

【厩舎】
競走馬の部屋が集まった建物

【入厩・退厩】
管理している馬が厩舎へ入る、または厩舎から別の施設へ移動すること

導入効果

—— 実感している導入効果はございますか。

導入前は職員2人で対応しており、うち1人は張り付きで申請内容のデータ入力や調教師への対応を行っていました。システム導入後も紙での申請時には調教師への対応が必要になるため、1人が張り付きで対応しなければならないのは変わりませんが、システムで申請されたものに関しては承認作業のみでいいので、業務量は大幅に削減しました。

また、レース開催時は馬の出入りが増え、対応職員1~2名が多く申請に対応しなければなりません。そのため、繁忙期は職員の業務負担が大きくなるだけでなく、申請者の待ち時間も長時間化する傾向にありましたが、紙での申請が減ったことにより業務が効率化され混雑も緩和されました。

今後の展望

—— 今後の展望はございますか。

調教師の平均年齢が高いこともあり、どの程度システムが浸透するか不安な点もありましたが、システムを積極的に利用してくれている調教師も多く、現在調教師の6割がスマートフォンから申請をしてくれています。今後はシステムに馴染みのない調教師の利用ハードルを下げるためにも、デジタル化することの有益性を伝えたり、システムや運用の改善を行い、利用率を高めたいと考えています。

また、ゆくゆくは馬に埋め込まれているマイクロチップのデータや、馬の予防接種の履歴や移動履歴が日本軽種馬協会によってデータ化されるという話もあります。そういった情報もシステムで管理できるようになれば、より効率的に業務を進められると思っています。

—— 今後GCCに期待することがあれば教えてください。

システム構築時は紙で運用していた当初の想定で構築しましたが、デジタル管理の運用を始めてみると、さらに削減できるのではないかと業務や効率化できる部分がありました。今後利用率の向上にむけて、ジーシーシーさんにもご協力いただきながら、より使いやすいシステムにしていきたいです。

ジーシーシーではパッケージシステム以外にも、各種クラウドサービスを活用したシステムの提案を行っております。お客様の課題に合ったソリューションをご提供いたしますので、何かお困りの際は是非GCCにご相談ください。

